

コロナ禍でも学びを止めない！
～タブレット端末を活用したリモート学習の実践～

鹿屋市立祓川小学校 教諭 津之地 美帆

目 次

1 研究主題	1
2 研究主題設定の理由	1
(1) 社会の情勢から	
(2) 本校の実態から	
3 研究仮説	1
4 研究計画と方法	1
5 研究の実際と考察	2
(1) リモート学習における家庭との連携	
(2) 一斉学習における指導の手立て	
(3) 個別学習における指導の手立て	
(4) グループ学習における指導の手立て	
(5) タブレット端末を活用した家庭での課題の出し方について	
(6) その他	
6 研究の成果	8
(1) 児童の視点から	
(2) 保護者の視点から	
(3) 教師の視点から	
7 今後の課題	9

〔引用・参考文献〕

- | | | |
|---|--------|------|
| ・『新型コロナウイルスに関連した肺炎の患者の発生について』 | 厚生労働省 | 令和2年 |
| ・『新型コロナウイルス感染症の現在の状況について』 | 厚生労働省 | 令和5年 |
| ・『やむを得ず学校に登校できない児童生徒等へのICTを活用した学習指導等について』 | 文部科学省 | 令和4年 |
| ・『共有ノート活用法』 | ロイロノート | |

1 研究主題

コロナ禍でも学びを止めない！
～タブレット端末を活用したリモート学習の実践～

2 研究主題設定の理由

(1) 社会の情勢から

令和2年、中国の武漢市で新型コロナウイルス感染症が確認され、各国で緊急事態宣言、非常事態の宣言、ロックダウン（都市封鎖）などの対策が行われたが、今だに収束の見通しは立っておらず、日本でも1日に10万人（令和5年1月4日現在）が新たに感染している状況である。

学校現場では、臨時休業、家族の感染による出席停止により、やむを得ず学校に登校できない児童生徒がいる状況が起こっている。文部科学省は、やむを得ず学校に登校できない児童生徒等に対して、「ICT端末を自宅等に持ち帰り、オンラインによる朝の会や健康観察で会話する機会を確保したり、ICT端末に学習課題等を配信することで自宅学習を促進したり、同時双方向型のウェブ会議システムを活用して教師と自宅等をつないだ学習指導等を行ったりするなど、登校できなくても学校と自宅等をつなぐ手段を確保し、児童生徒の住んでいる地域によって差が生じることがないように、児童生徒とコミュニケーションを絶やさず学びを止めないようにする取組を行うことが重要である。」としている。

(2) 本校の実態から

新型コロナウイルス感染症の影響で、令和4年度も出席停止によりやむを得ず登校できない児童が多くいた。本校では、令和3年5月に1人1台のタブレット端末が整備され、それを使った学習に取り組んでいる。また、令和4年2月から端末の持ち帰りを始め、タブレット端末を使ったリモート授業や宿題に取り組んでいる。しかし、遠隔でどのように指導を行えば児童が学習内容を理解したり、他の児童と意見を共有したりすることができるのか分からず、児童が授業内容を十分に理解できていない実態があった。タブレット端末を用いた宿題は、どのような課題を出せばよいか分からず、いつも同じような課題になっていたりと、課題のやり方が分からず与えられた課題を全て済ませることができない児童がいたり、取組において不十分な面が多くあった。

3 研究仮説

仮説1

臨時休業や出席停止によりやむを得ず学校に登校できない児童に対して、タブレット端末を有効活用して授業を行うことで、コミュニケーションを絶やさず学びを止めないようにすることができるであろう。

仮説2

タブレット端末を持ち帰り、様々な課題に取り組むことで、児童が家庭でも主体的に学習したり、様々な活動ができたりするであろう。

4 研究計画と方法

今回、3年生での学習において、タブレット端末を活用してリモート学習を行ったり、家庭での

課題に取り組ませたりした。研究計画は、以下のとおりである。

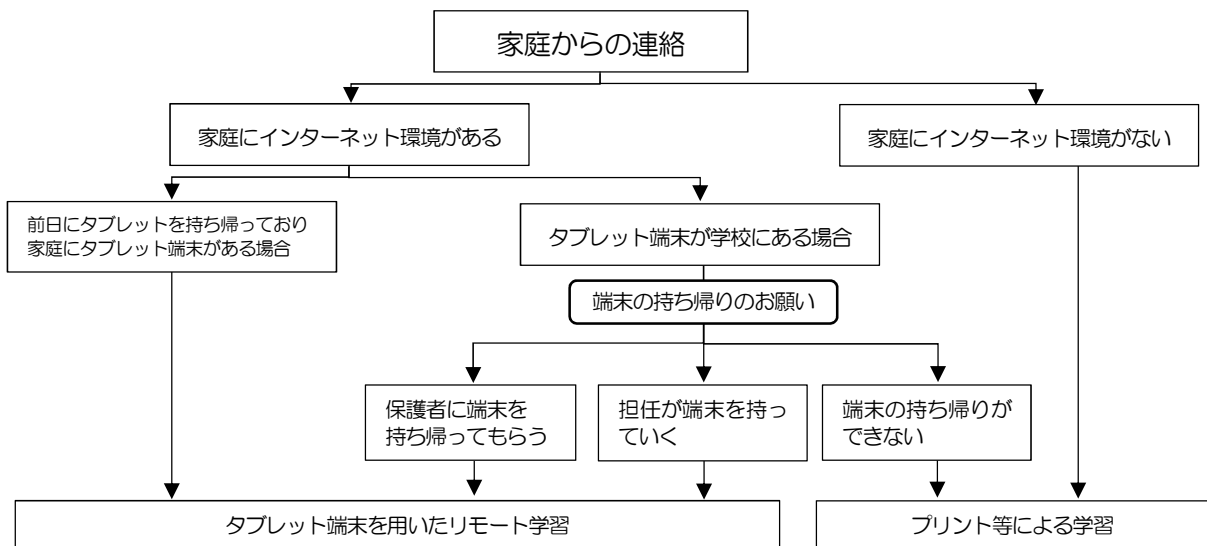
1	タブレット端末の整備	4月6日
2	実践	5月～12月
3	アンケート実施	12月
4	実践のまとめ	12月

5 研究の実際と考察

リモート学習や持ち帰りによる宿題をするに当たっての環境整備や、これまで行ってきた実践のいくつかを紹介する。

(1) リモート学習における家庭との連携

出席停止等により家庭でリモート学習を行う場合、以下のように家庭と連携し、家庭で授業が行えるようにした。



8時15分に朝の会をすることを伝え、「Teams」を活用してリモートでのやりとりができるようにしている。

(2) 一斉学習における指導の手立て

リモート学習を行う場合、キャスター付きの棚の上にタブレット端末を置き、内側のカメラが黒板を写せるようにする（写真1）と、担任側から児童の顔が見えるようにすることができる（写真2）。内側のカメラからでも、黒板の文字が見えるので、児童は、黒板を見ながらノートを取ることができる。電子黒板は、テレビの画面が反射し、遠くからは見えにくいいため、電子黒板を見せたい場合は電子黒板にタブレット端末を近付ける必要がある。キャスター付きの棚を使うと、タブレット端末の移動がしやすく、便利である。



写真1

後ろを少し上げると黒板が見やすくなる。



写真2

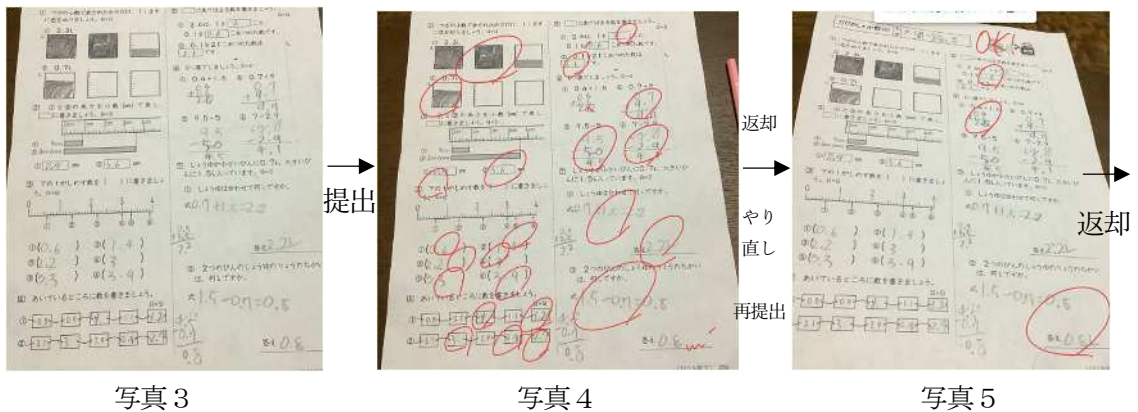
(3) 個別学習における指導の手立て

個別に課題に取り組む際、以下のア～エの手立てを行うことで、登校して学習を行う児童と同じように個別学習に取り組むことができ、担任が見届けたり、指導を行ったりすることが可能になっている。

「Teams」をつないだまま、ホームボタンを押してロイロノートを起動させるようにすると、児童と音声でやりとりをしながら活動を進めることができる。

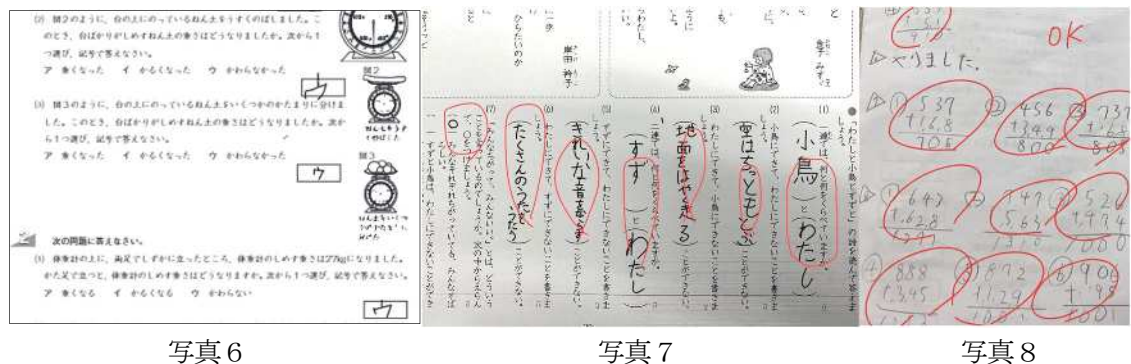
ア プリント等の課題が手元にある場合

児童が前日までにプリント類を持ち帰っている場合や、保護者が道具を取りに来ることが可能である場合は、児童は手元にあるプリント等で課題に取り組むことができる。課題が済んだら、プリントを写真に撮ってロイロノートで送る（写真3）。担任は、届いた解答に丸をつけて返す（写真4）。やり直しがある場合は、再度取りませる（写真5）。児童の送った課題が届いたときは、「届いたよ」と声を掛けると児童も安心して採点を待つことができるようである。



イ 課題が手元にない場合

課題を写真で撮り、ロイロノートで児童に送る。または、プリントをPDFにデータ化したものを児童に送る（写真6）。ロイロノートで送った課題は、タブレット端末に直接書くこともできる（写真7）が、書きにくい場合は答えだけノートに書くようにさせる（写真8）。課題が済んだら、アの場合と同じように採点を行う。



ウ ロイロノートでの課題に取り組ませる場合

教室にいる児童もロイロノートを活用して課題に取り組む場合は、教室の児童もリモート学習をしている児童も同じように活動させることができる。提出等も同じようにできるので、提出箱を活用すれば、児童の解答を一覧で表示させることができる。

エ 個別指導

手元にプリントやノートがある場合は、「Teams」の画面上にプリントやノートを見せて解答を確認・指導することができる。分からないところがないか、こまめに声を掛けるようにし、分からない部分があれば分からない部分を聞き、指導する。手元にプリントがない場合は、取り組んでいるものをロイロノート等で送ることで指導が可能になる。また、リモート学習用のノートを担任と共有すると、ロイロノートで活動をしている際の実践の様子がすぐに把握でき、よりよい指導が行える（共有ノートについては(4)ウを参照）。

(4) グループ学習における指導の手立て

ア 友達との話し合い・意見交流

グループの友達と自分の考えを交流する場合は、画面は「Teams」をつないでいる状態にし、リモート学習をしている児童が見えるように、教室にいる児童が場所を移動し、話をするようにさせる（写真9）と、顔を合わせて話し合いをすることが可能になる。必要に応じて自分の考えたノートを見せるなどして、工夫して話し合いをする姿が見られた。ただし、お互いにノートを見せるには、背景をぼかしたり、背景を変えたりせずに活動を行う必要があるため、家の一か所が画面に映ってしまうことに関して、事前に保護者の了承を得ておく必要がある。



写真9

イ ロイロノートを活用した意見の交流

作文などの作品を友達に紹介する場合は、作文をデータ化したもの（PDFにしたもの又は写真に撮ったもの）をリモート学習をしている児童にロイロノートで送り、そのデータを見ながら感想を伝えるようにする。教室にいる児童は、リモート学習をしている児童の作品をタブレット端末で見ながら感想を伝えるようにする（写真10）。そうすることで、お互いの作品を紹介し、感想を伝えることができた。

作品をPDFにデータ化しておくことで、児童の作品をまとめる際にも大変便利である（写真11）。



写真10(左) リモート学習をした児童の感想
写真11(右) PDFデータ
(国語「たから島のぼうけん」)

ウ 共有ノートを活用した活動

ロイロノートには、共有ノートという機能があり、共有ノートを使うと、複数の児童が一つの画面を共同編集することができる。壁新聞やレポートなどを共同編集で作成したり、児童が調べた情報をそれぞれ持ち寄ってまとめたり、児童の意見・発表に対して、児童が相互評価をしたりすることができる。この機能を使えば、リモート学習を行っていても、教室にいる児童と話をしながら活動を進めることができる。

(ア) 社会「安全マップ」の作成

社会「事故や事件から地域を守る」の単元の最後に、地域の安全マップの作成を行った。事前に地域の地図や印などのコマを用意しておき、グループごとに制作を行わせた。ロイロノートを起動しているため顔を見ることはできないが、話をしながら自分の住んでいるところを中心にグループで役割を分担し、安全マップを作成することができた（写真 12）。



写真 12

(イ) 体育での活用

リモート学習では、体育等の実技の授業を行うことが難しいが、「見学」という形で学習に参加させることができた。

あらかじめグループを編成しておき、グループごとに共有ノートを作成する。学校で授業に参加している児童は、自分たちの動きなどを動画に撮影し、共有ノートに保存しておく（写真 13）。リモートで学習に参加している児童は、その動画を見てよいところを見付けたり、アドバイスをしたりすることができる。また、めあてや振り返りを記入するワークシート等をロイロノートで作成し、共有ノートに貼り付けておくことで、友達の動きを見て感じたことを振り返りの欄に記入することもできた（写真 14）。

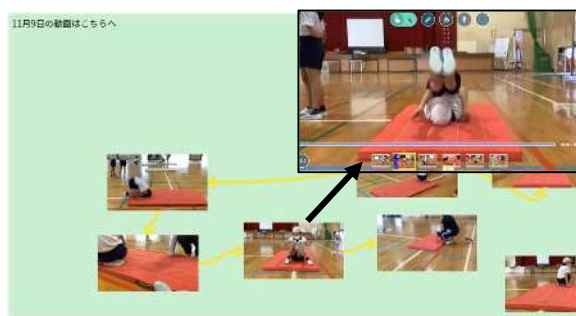


写真 13 児童が撮影した動画（マット運動）

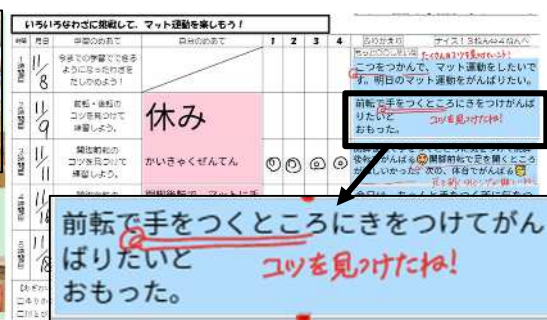


写真 14 体育ワークシート

(5) タブレット端末を活用した家庭での課題の出し方について

本校では、週 1 回タブレット端末を持ち帰り、それを活用して宿題に取り組ませている。

3年生では、宿題の内容をカードにし、ロイロノートで児童に送っておくことで、どの課題があるか児童が理解することができるようにしている（写真 15）。また、ロイロノートの「授業の追加」で「宿題」という項目を作成し、宿題ノートを児童に作成させる。済ませた課題は、それぞれ提出箱に提出するようにさせる。一つの宿題に対し、一つの提出箱を作成すると、提出していないところに赤いマークが付き、どの課題を済ませていないかが分かりやすくなる（写真 16）。また、国語に関する宿題を、「国語」の項目に提出させたい場合にも、提出後に宿題ノートから「終わりました」というカードを提出させることで、児童が課題を忘れることなく取り組めるようになった（写真 17）。児童は、それぞれ工夫してノートをまとめることができていた（写真 18）。

ア～エは、これまで宿題として行ったものの一例である。臨時休業や出席停止によりリモート学習になった際も、これらの課題に取り組ませることが可能になる。

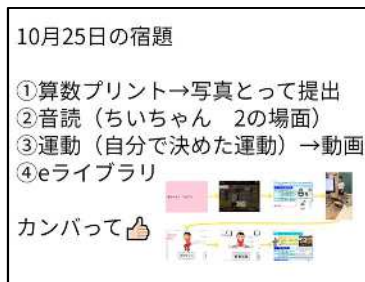


写真 15



写真 16



写真 17



写真 18 児童の宿題ノート (ロイロノート)

項目ごとに分け見出しを付けた (画像左), 1枚のテキストに枠を作り, カードを並べてまとめたりしている (画像右)。



ア プリント課題

児童が家庭で行った宿題をロイロノートで写真に撮り, 提出箱に提出をさせる。提出された課題は, 担任がすぐに丸付け・採点をすることができる。丸付け・採点をしたものは返却ができるので, すぐにやり直しをすることができる。やり直したものを再度提出し, 担任が確認することも可能である (写真 19)。家でやり直しができなかった場合も, 登校してからタブレット端末を見ながらやり直しができるので, 次の日の宿題の見届けが容易になる。

このボタンから, 提出履歴を確認することができる。

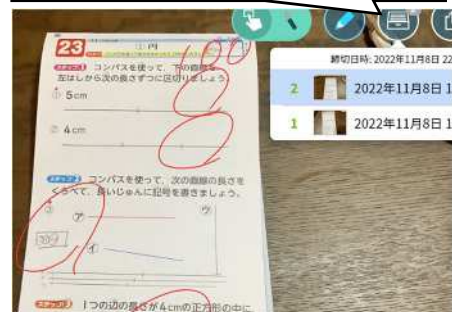


写真 19

イ 音読・運動

音読は, 読んでいる様子を動画に撮影し, 提出させるようにすることで, 読み方や声の大きさなどを見届けることができた。また, 家庭で取り組んだ運動を動画に撮影し, 提出させるようにすることで, 家庭でも意欲的に運動に取り組むことができた (写真 20)。体力テストの結果を基に, 自分でする運動を決めて取り組む児童も多かった (写真 21)。

コメントを付けて返却することもできるので, 児童の意欲付けも期待できる (写真 22)。



写真 20 あぐら組み換え運動



写真 21 家庭でのランニング



写真 22 音読

ウ 言葉集め

国語「春のくらし」「夏のくらし」などでは、季節に関する言葉集めを行う。家庭で家族と一緒に考えられるように、宿題で言葉集めをさせた。クラス全体の共有ノートを作成し、テキスト1枚につき一単語ずつ、季節の言葉を書いていく。テキストの枚数は問わずに、考え付く分だけ書くようにさせた。他の友達が書いた言葉を見ることができるので、友達の考えをヒントにしなが言葉を集めることができた。また、集めた言葉を使って文章を書く際は、共有ノートにある言葉を見ながら書くようにさせることで、たくさんの文を書くことができた（写真23）。

気の利く児童が見やすいようにカードを並べてくれている。



写真23 国語「冬のくらし」言葉集め

エ eライブラリの活用

eライブラリで課題を出し、取り組ませることで、プリントを印刷したり、採点したりする負担を減らすことができた。担任は、児童の学習状況を確認することができるので、児童の課題を把握し、指導に生かすこともできた（写真24）。担任が課題を出し、児童はeライブラリにログインし、画面左側の「課題あり」をタップすると問題に取り組むことができる（写真25）。課題が済んだらロイロノートで「終わりました」と書いたテキストを作成し、提出するようにさせることで、忘れずに取り組むことができるようになった（写真26）。

eライブラリでの学習課題の出し方

トップ→学習指示へ→学習指示を出す（任意設定）→4項目から選んで選択→教材を選ぶ（ここで教材を選択する）→期限設定モードにし、提出期限を設定→出題する



写真24



写真25



写真26

オ 容儀指導・準備の見届け

ハンカチ・ちり紙を準備する様子を動画で撮影したり（写真27）、爪切りの様子を動画で撮影したりして提出させることで、健康を意識して学校生活を送る意識付けを行うことができた。えんぴつ削りをする様子を動画に撮ったり、教科書やノートの準備をしている様子を動画に撮ったりさせることで、忘れ物をせずに気持ちよく学校生活を送る意識付けを行うことができた。



写真27

(6) その他

タブレット端末の操作方法を説明する際は、スクリーンショット（画面撮影）をし、タップす

る箇所に印を付けたリ操作法を書き込んだりすることで、児童に分かりやすく伝えることができた（写真 28）。児童が家庭でタブレット端末の操作に困ったときも、画面を提示し質問することができている（写真 29）。



写真 28 Teams の接続方法

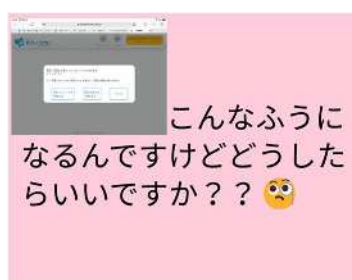
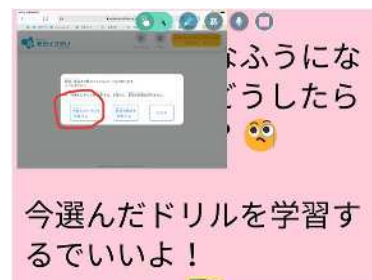


写真 29 e ライブラリの操作方法についての児童からの質問・担任の回答



6 研究の成果

(1) 児童の視点から（3年生 7人 令和4年12月21日実施）

項目	そう思う	まあそう思う	あまり思わない	思わない
① リモート学習は楽しい。	5	2	0	0
② タブレット端末の宿題は楽しい。	6	1	0	0
③ リモート学習で授業の内容が理解できる。	5	2	0	0

- 児童はリモート授業やタブレット端末の課題を「楽しい」と感じ、意欲的に学習に取り組んでいた。また、リモート授業でも、「分かった」「できた」の達成感を感じることができている。
- 登校できない日が続いた児童にとっては、クラスの友達と会えることが嬉しいようであった。
- リモート学習では、担任が側について指導することができないことを児童も理解しているため、自分自身で課題に取り組もうとする意欲が見られた。
- e ライブラリでの学習は、多くの児童が意欲的に取り組んでいる。やり直しをして、100点にすることで、達成感を味わうことができているようである。
- 「Teams」を活用して友達に分かりやすく伝えたり、「ロイロノート」を活用して分かりやすくまとめたりするために、児童が創意工夫を凝らしていた。

(2) 保護者の視点から（3年生保護者 7人 令和4年12月21日実施）

項目	そう思う	まあそう思う	あまり思わない	思わない
① やむを得ず学校に登校できない場合、リモート学習は児童の学びを止めないための方法として有効であると感じる。	6	1	0	0
② タブレット端末の持ち帰りによる宿題について、困っていることがある。	6			1

- ①の質問に対して、約86%の保護者が「そう思う」（「まあそう思う」を入れると100%）と回答しており、多くの保護者がリモート学習に好意的である。
- 児童が楽しく宿題に取り組んでいることや、書く時間が減り考える時間を確保できることから、タブレット端末の宿題をもっと増やしてほしいという意見もあった。

(3) 教師の視点から

- 出席停止が続いてもリモート学習を行うことで、出席停止期間が終了し登校した際の補充指導の時間が減り、負担が軽減された。
- 家庭での運動など、これまで見届けることができなかった課題も見届けることができるようになった。
- リモートなどで、他校との交流も可能となるため、今後は他校との交流等も行っていきたい。

7 今後の課題

- △ 共有ノートは、担任が見ていないところで児童同士のやり取りができるため、使用していない共有ノートは、児童が見られないようにしたり、最終更新時間を確認したりするなどして、見届け・指導等をしっかり行う必要がある。
- △ 本校は児童数が少なく、リモート学習をする児童へ個別指導が可能であるが、人数の多い学級でも無理なく指導が行えるよう、更に指導法を研究していく必要がある。
- △ 学童に通う児童は、タブレット端末の宿題を家に帰ってから行うことになるため、遅くなってしまうという保護者からの意見があった。タブレット端末を用いた宿題が児童に負担にならないよう内容を吟味していく必要がある。
- △ タブレット端末の操作スキルについては個人差があるため、全ての児童がタブレット端末を有効活用し、学習に取り組めるよう今後も指導を行う必要がある。
- △ インターネット環境がない家庭もあるため、どの児童にも学びの機会が確保されるよう、設備を整える必要がある。
- △ 児童のタブレット端末にはフィルタリングがかかっているが、児童が学習以外の用途でタブレット端末を使用することがないように、今後も情報モラル指導等を継続的に行っていく必要がある。